

家具産業クラスターで地域活性化

(スウェーデン)

ベルリン・センター

家具製造が盛んなスウェーデン南部では、家具を含む木材加工産業を支援する施設「木材センター」が設立され、同分野の研究・開発や教育が行われている。同センターが主体となり、木材加工産業のネットワークを利用した産業クラスターも形成され、プロジェクトを通じた地域の活性化が図られている。

1. 地域の家具産業をネットワーク化

スウェーデン南部に位置するスモーランド (Småland) 地方は、森と湖に囲まれた自然が豊かな地域である。そのため木材加工産業が盛んで、家具産業が主要産業の1つとなっている。スウェーデン製家具の約7割がこの地方で製造される。この地方の中心的な都市ヴェクショー (Växjö、人口7.5万人) とその周辺地域は、共同で木材加工産業の発展に取り組んでおり、その中心的機能を果たしているのが、「木材センター (TRÄCENTRUM)」である。

同センターのイニシアティブにより、個々に芽を出していたさまざまな家具・木材関連のプロジェクトやプログラムの間に有機的なネットワークを張ることを通じ、この地に産業クラスターを形成し、家具・木材産業を通じた同地域を活性化・強化することを目指している。

2. クラスターの中心としての「木材センター」



敷地面積 65,000 m²を誇る木材センター

ヴェクショー市に隣接するネスショー (Nässjö) 市にある「木材センター (TRÄCENTRUM)」は、政府、2つの地方自治体、木材加工および家具製造業者など35社の支援によって95年に設立された複合施設で、木材加

工技術研究および実験設備、最新鋭の木材加工設備、木材関連専門図書館、セミナールーム、カンファレンスルームが完備されている。

また、関係する企業向けの貸しオフィスや職業訓練校が入居しているほか、施設内にはカフェや、各種の催事が行えるイベントスペースなども用意されている。敷地面積約6万5,000㎡の同センターは、同様の施設としてはスウェーデンで初めてのもので、現在でも最大の規模を誇っている。

同センターでは、木材加工技術開発、デザイン、製品開発、マーケティング支援、木材加工職業訓練、各種セミナー・ワークショップ、家具産業クラスター育成など家具を含む木材加工産業関連のあらゆるプログラムを提供しており、産学連携により行われている木質バイオマス研究は、国際的にも評価を得ている。

この地域では、既に家具産業クラスターが形成され、新しいプロジェクトが進められている。その中から2つの例を紹介する。

TRÄCENTRUM



最新鋭の木材加工設備とセミナールーム。

3. クラスターを拠点に新プロジェクト

(1) 家具用部材のサプライヤーグループ：SFCG

Swedish Furniture Component Group (SFCG) は、2000年からスタートしたプロジェクトである。背景としては、今まで各サプライヤーは、家具メーカーから部品ごとに受注・納品していたが、日本の置かれている状況と同様に、コストの安い外国、特に中・東欧のサプライヤーの台頭により、受注額が減少傾向にあった。高い技術を持っている同地域の各サプライヤーは、技術力を武器に家具以外の分野への進出や高付加価値部品への転換を行ってきたが、さらに新しい試みとして、「木材センター」の呼びかけで製造品目の異なる6社が集まりSFCGが結成された。



参画した6社の製造分野は、造作家具（空間に合わせて設計される家具）、内装材、表面加工、アップホルスター（布、革張り）加工、成形合板加工、メタル加工、椅子関連のフレーム加工、無垢製材加工となっており、いずれもが従業員5人から48人と中小

規模の会社である。

SFCG は、主に欧米の自動車メーカーが以前から導入し、最近では日系自動車部品のサプライヤーでも採用が始まっているシステムサプライヤー方式をモデルにしている。従来のように部品ごとに受注、開発、納品するのではなく、部品同士を組み合わせたモジュール（複合部品）または製品（完成品）として一括受注し、全体における企画立案、仕様決定、設計、開発、スケジュール管理、品質保証まですべてを担うものである。発注側では、発注作業・見積り管理の簡素化、開発期間の短縮、組立工程の簡素化などのメリットがある。受注側でも、グループ内の各サプライヤーが得意とする技術を結集して、コスト・技術面で優れた高品質・高付加価値モジュール（複合部品）の供給が可能となり、他社との差別化が図れる。また、サプライヤー間の相互連携により、新たな知見、ノウハウ蓄積など技術力向上のメリットも考えられる。

現在、同グループでは、英国市場にターゲットを絞り、英国デザイナーグループとのコラボレーションやメーカー、流通業者、設計事務所での受注活動を展開している。同グループでは、日本を含めた他の地域との提携・協力も大いに歓迎している。

(2) 観光振興プロジェクト：「家具の王国」

もう1つのプロジェクトが、「家具の王国（Möbelriket）」である。これは、ヴェクショー市内ではあるが、市の中心地から北に40キロ、人口約1,800人で、家具関連の会社が多く点在している以外は特に目立つ観光資源を持たないラムフルト(Lammhult)地区にある。

MÖBELRIKET



「家具の王国」の中心的存在で、会社名に同地区の名前が付けられ日本でも有名なデザイン家具メーカーLammhults社のショールーム

もともと同地区で家具販売店を経営していたオーナーが、約10年前から家具による地域活性化策構想を持っており、2000年からヴェクショー市と前述の「木材センター」の支援を正式に受けて、スタートを切った。

「家具の王国」、は現在ラムフルト地区に拠点を構える家具メーカー、家具工房、家具販売業者など計8社が中心となり、地元のレストラン、ホテルなどが協賛して形成されている。

同「王国」のモデルとなったもう1つの王国「ガラスの王国

(Glasriket)」が、この地域にはある。

「ガラスの王国」には、世界的に有名なガラス工房をはじめ、大小のガラス工房が加盟しており、同地域周辺には、同王国に加盟していないメーカーの店舗も多く進出しており、スウェーデンで最も人気の高い観光地の1つとして数えられている。

同地域は、ガラス造りに最も必要な森林と澄んだ水に恵まれ、18世紀以降、ガラス産業が同地域の主要産業の一つとして発展した。その後、観光資源化を目的とした「ガラスの王国」が関連企業15社の参画により形成され、スウェーデン、欧州はもとより日本を含めた海外でも有名な観光地となった。

「ガラスの王国」に加盟している各ガラス工房では、作業風景が見学できるほか、工房によっては併設の展示室や博物館でガラスの歴史などの見学ができ、カフェ、レストランなども併設している。最大の目玉は、工場直売店・アウトレットショップの存在である。通常デパートなどで販売されている高額なガラス製品の二級品、在庫処分品、掘り出し物などを手頃な価格で購入できるとあって、大変な人気となっている。

ヴェクショー市では、「ガラスの王国」とともに、「家具の王国」をもう1つの観光資源として育成していく計画である。2003年には、同王国の知名度向上のために、デザインイベントを開催し、インテリア、観光産業の見本市に出展するなど、活発なプロモーション活動を行っている。そして参画している家具メーカー、家具デザイナーの紹介や地元のレシピ、ライフスタイル、名所、自然豊かな風景など掲載した写真集のようなイメージブックを作成し、同王国の各拠点で販売している。

今後は、同王国の活動本格化に向けて体制を見直す。これまで明確な加盟資格条件を特に設けていなかったため、会社によっては、部分的にしか参画していないなどの問題があったが、今後は、統一の基準を設け、その条件を満たす会社に加盟資格を与えるようにする。同時に、王国に加盟できるメーカーなどの所在地を、現在のラムフルト地区から周辺地域へ拡大させ、多くの有望メーカーが参画できるようにする。

2004年には、2003年に引き続き、見本市への出展、デザインのイベント開催などプロモーション活動のほかに、目玉プロジェクトとして王国に参画しているメーカー、販売店による二級品、廃番製品を集めた常設アウトレットセンターの開設を予定している。開店当初は、週末のみの営業を考えており、その後は平日営業もする予定としている。

「家具の王国」では、イベント開催やアウトレットセンター開設などによって、北欧デザイン家具に強い興味を持つ日本を含めた海外からの観光客誘致にも期待を寄せている。

(高橋啓之)